

分断の経営

ーグローバル化は終焉するのー

報告者: 安室憲一(兵庫県立大学・大阪商業大学 名誉教授)

2022年12月10日

多国籍企業学会西部部会

於:阪南大学アベノハルカスキャンパス

ロシアのウクライナ侵攻はなぜ起きたのか？

- 限界に近づいていた「グローバリゼーション」： 得をした国・損をした国の違い・・・工業国になれなかったロシアの立場。
- ロシア人の夢: ソ連時代の国力の回復・・・現在は韓国にも及ばないGDP。経済はともかく、軍事で東欧を支配したい。
- 若者と老人の認識ギャップ: ソ連時代を知る老人と知らない若者、世界の技術レベル(特にIT)を知る若者と知らない老人世代。
- プーチンの夢を支える旧世代: ウクライナの次はバルト三国の支配? 若者はなんの興味もない。
- ロシア帝国の自滅: 弱体な経済力で戦争を遂行できるのか? ロシア民族以外の人々を統合できるのか?

中国の立ち位置

- 習近平氏の三選: 社会主義計画経済への段階的回帰(例「供鎖合作社(生協)」や「人民食堂」の復活)・・・民営企業への制約、国营重視、国民監視体制の強化、漢民族中心・異民族抑圧、軍事力強化・・・。
- ロシアとの距離: 近すぎると欧米と対立、適度の距離を維持しつつ、台湾問題を慎重に扱う。
- 米国とその同盟国に対峙: 中国の国際貿易に著しい障害をもたらす可能性が大・・・これは避けたい。
- 中国経済の限界: 急速に進む少子高齢化・人口減少、市場成長率の急速な低下、対外経済依存の増大、外国技術への依存・・・。
- 習近平体制の継続: 過去の政策を否定するような革新的改革は困難・・・再度の経済成長は期待できない。

中国の選択肢

- 李克強へのバトンタッチが成長回復の唯一の道だった：経済を熟知しているリーダーが必要。それを習近平が自ら断った。
- 外資系企業に対する「冷めた態度」：国有企業の重視・支援強化、民間企業に様々な規制・制約、外資系企業の冷遇・・・。
- 外国からの技術導入困難：米国政府の規制によりハイテクは導入困難に・・・外国人技術者の誘致も困難、「産業スパイ」を徹底チェック・・・自主開発以外にないが、それには莫大な投資が必要。
- 習近平体制は、経済よりも政治と軍事を重視：国内を固めるためには外部に敵を作るのがよい。今はコロナが共通の敵、次は「台湾」？

団結するNATO諸国と日本

- 国際的な場からロシアを排除する: EU、アメリカ、日本、韓国、東南アジア、オセアニア・・・いずれインドも参加。
- 次の排除対象国は中国になるか?: 台湾に攻勢をかければロシアと同じ扱いになる。
- 中国の抑えとしての日本への役割期待: EUや米国の過大な期待にどう答えるか? 中国との経済関係をどのように維持していくか。
- アジア・太平洋地域に対する日本の責務: 海洋国家連合の要として安定と発展に貢献。
- NATO諸国との連帯: 地球環境問題など世界共通の課題を通じた協力関係の強化と人的交流。もちろん、中国や韓国とも積極交流。

日本の課題

- 再軍備の検討: アジアの安定への責務。中国の抑止、韓国の支援、台湾の救済、アメリカの補佐が当面の課題。
- 中国との適切な距離: 研究開発・技術志向は日本、輸出志向は東南アジア・インド、現地市場志向は中国・その他の国に国際分業。中国企業の競争力強化に伴い、中国製品と差別化。
- 経済以上に政治の動向に注視する: 同盟国は信頼できるとしても、それ以外の国の政治動向を絶えずチェック。
- 高度技術や金額の大きな投資案件は「同盟国」に集中(ニアショアリング): 国有化のリスクを正しく評価し、リスクを避ける。
- 日本人技術者・管理者の派遣は「安全国」に限る(フレンドショアリング): 計画的に「経営の現地人化」を図る。
- また来るパンデミック(コロナなど)に備える、ESGsに貢献する。